

## 26年9月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
入荷動向	スギ	△ 16.7	16.7	33.3
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	0.0	20.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	0.0	20.0	60.0
	ヒノキ	25.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	20.0	20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	25.0
	カラマツ	△ 20.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は、9月の減少が10月、11月は増加に、ヒノキは3ヶ月連続の減少、カラマツは9月、10月の横ばいが11月は増加に、トドマツは3ヶ月連続して横ばいで推移。  
・スギ原木の消費は、9月の横ばいが10月、11月には増加、ヒノキは9月の増加の後10月、11月は横ばいに、カラマツは9月、10月の横ばいから11月は増加に、トドマツは3ヶ月連続の横ばいで推移。  
・スギ原木の在庫は、9月の横ばいが10月、11月は増加に、ヒノキは9月、10月の減少から11月は増加に、カラマツは9月の減少が10月、11月は横ばいに、トドマツは3ヶ月連続の横ばいで推移。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
スギ	0.0	20.0	20.0
ヒノキ	0.0	25.0	25.0
カラマツ	△ 20.0	50.0	50.0
米マツ	△ 40.0	△ 25.0	0.0
北洋カラマツ	△ 60.0	0.0	33.3
その他	-	-	-

・スギ及びヒノキの原木価格は、9月の保合が10月、11月は強保合に、カラマツ及び北洋カラマツは、9月の弱保合ないし弱含みが10月、11月には保合ないし強保合に、米マツは9月、10月の弱保合ないし弱含みが11月には強保合に。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・スギ、カラマツの入荷は変わりなし、生産に合わせて消費。在庫はほぼ横ばい。  
・順調に入荷、減産につき消費抑え、在庫は増加傾向。  
・入荷、消費は10月以降の製品の動きに期待、在庫は翌月以降の需要期の対応と冬場の出荷減を見越して調整予定。  
・入荷は、計画通り納材、樹種問わず多少多め、当月も同様構造用合板15%減産にて消費減少、但しヒノキは需要あり当月消費増、在庫は全体的に前年比10%増。  
・9月は入荷量確保したいが天候でなかなか増えない。消費は8月は20%減、9月は在庫見ながら生産、9月以降在庫増やしたい。

## (原木価格)

・米マツ、北洋カラマツは若干下がっているが、円安で上昇する、国産材は横ばい。  
・カラマツが心配（上昇）。  
・盆明け後一部のエリアで値上がりが見られる、全体的に横ばい（やや強含み）、秋口にかけて需要次第で上昇。  
・7月、8月、9月と変動なし、今後樹種により変動ありうる。  
・現時点で横ばいだが、入荷量、製品の動き見て決めている。外材はロシア、カナダ共現地価格下げ。中国の動き次第。

## 26年9月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
生産動向	構造用(9mm)	20.0	△ 25.0	△ 25.0
	〃 (12mm)	33.3	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	20.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	50.0	0.0	0.0
	〃 (15mm)	20.0	25.0	25.0
	〃 (24mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	20.0	25.0	25.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (12mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (15mm)	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	〃 (24mm)	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (28mm)	0.0	△ 25.0	△ 25.0

・9mm及び12mmの生産は、9月の増加が10月、11月には減少に、15mm及び28mmは3ヶ月連続の横ばい、24mmは3ヶ月連続の減少。

・9mm及び12mmの出荷は、9月の増加が10月、11月は横ばいに、15mm及び28mmは3ヶ月連続の増加、24mmは3ヶ月連続の横ばい。

・12mmの在庫は、3ヶ月連続の減少、それ以外は9月の横ばいから10月、11月は減少に。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
構造用(9mm)	0.0	25.0	25.0
〃 (12mm)	0.0	20.0	20.0
〃 (15mm)	0.0	25.0	25.0
〃 (24mm)	0.0	20.0	20.0
〃 (28mm)	0.0	25.0	25.0

・全品目とも出荷価格は、9月の横ばいから10月、11月は強保合に。

## モニターからのコメント

## (合板荷動き)

- ・9月も減産により全数量は変わらないが品目により増減あり、出荷動向に合わせての生産。出荷は12mmは増、15mm、24mm、28mmは減。在庫は24mm、28mmは微増なるかも。
- ・生産は、引き続き減産にて調整中。直需先など動き出てきた。在庫は今後減少傾向。
- ・出荷は、9月は物件納入の予定あり横ばいの予想、住宅着工減少のためその後は減少する。
- ・当月まで15%生産減。出荷は横ばい状態、生産量に対し5%程度増。減産で適正在庫を維持。
- ・在庫見ながら生産調整、今後は現場も動き出す、出荷増を期待、在庫は横ばいが続く。

## (合板価格)

- ・値上げアナウンスはしているが、需要増えずほぼ横ばい、月後半に上がるかも。
- ・安値なくなり今後は上昇へ。
- ・受注、出荷も少なく状況厳しいが、ラワン原木、製品とも値上がりが大きく進んでおり、期待込めて横ばいから上昇。
- ・下げ止まり状態、現状より下降しないと願う。
- ・各社生産調整中、価格は徐々に回復する。